

アイ・ビービューティカレッジ 学校関係者評価委員会議事録

本校講堂にて 2月 27日 14:00 開催

学校職員：泉理事長・井手校長・理容科野中主事・美容科香田主事・広報担当野中

業界代表：株式会社 Poziravi 代表 松隈直也様 株式会社美 ALL 代表 荒木美智子様

地域代表：伊勢町自治会長 澤正昭様

教育機関代表：佐賀女子高等学校教諭 佐藤由美子様

理事長の挨拶の後、井手学校長より学校関係者評価委員会の趣旨の説明が行われ、奇譚ない意見をいただけるようお願いがあった。

その後、評価項目ごとに自己評価を報告し質疑応答が行われた。

1.学校の教育目標

理容と美容の組合が共同で設立した専門学校として、理美容業界で長く働ける人材の育成を目標とする。

2.2019年度に定めた重点的に取り組む目標と計画

教育目標の実現には、できるだけ早くスタイリストになり安定した収入を得ることが重要との考えから、実務実習の充実、人材育成に積極的なサロンへの就職などを目的に、「提携サロン制度」によるサロンとの協力関係の構築を重点課題とする。また、理容および美容の学科を有している本校の特色を生かし、両方の国家資格を持つ人材育成に務める。

具体的な計画

- A. 技術と接客に優れ、人材育成に積極的なサロンとの提携
- B. 提携サロンでの実務実習時間を増やしアシスタント業務や接客の現場を理解させる。
- C. 提携サロンからスタイリストを講師として迎え、選択授業において実務の話を交えながらスキルアップを図る。
- D. 理美容両方の国家資格を取得する利点を積極的に告知し、Wライセンスコースへの進学者を増やすことで、理美容師として長く働ける基盤を作る。

重点的な取り組みに対する総合評価

- A. 事業所単位で10サロン（20店舗）と提携することができた。
- B. カリキュラムの運用変更でサロンでの実務実習時間を60時間に増やし、主に提携サロンに於いてアシスタント業務の実習を行うことができた。
- C. ヘアデザインの選択コースに於いて、サロンよりオーナーやスタイリストを派遣して頂き、理美容師の心構えや今学ぶべきことなどのレクチャーと実務的な技能訓練を行なった。
- D. 2020年度学生募集に於いては、出願者の58%がWライセンスコースを選択した。

業界との協力により教育目標達成の基礎となる仕組みができた。今後も、重点的に取り組む課題として継続的に制度やカリキュラムを見直ししながら推進していきたい。

3.評価項目の達成および取り組み状況

※5段階評価・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

1. 教育理念・目的等	自己評価
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4
1-2 学校の特色は明確か	4
1-3 社会のニーズを踏まえた将来像を抱いているか	4
1. 理容と美容の組合が共同で設置した学校であるため、人手不足の業界の現状を踏まえて、現場で必要とされる人材の育成を業界とともに取り組んでいる。 2. 少人数制であることで、個人のレベルを踏まえながら確実に国家資格を取得する。その上で「就職のその先」を起点にしたバックカスティング思考での教育を実践している。 3. 訪問施術や福祉理美容の増加が見込まれるため、ニーズに柔軟に对应されるよう理容と美容の2つの国家資格の取得を推進している。	

課題

3年前に離職率の調査を行なったが、その後に継続的な調査ができていないため、理美容業界で長く働ける人材の育成という教育目標が実現できているか検証が必要

今後の改善方策

3年前の卒業生以降の就業状況をデータベース化し、毎年トレースする体制を作る。

特記事項

理美容師の3年後の離職は50%程度と推測されているが、アイビイーの卒業生は7%と極めて低い実績がある。この実績が偶然ではないことを証明する継続的調査と情報公開で教育機関としての信頼を築きたい。

■学校関係者の評価・意見 [適切4・不適切0]

質問.離職状況のデータベース化にあたりセキュリティや個人情報はどうするのか？

回答.プライバシーポリシーに基づき、あらためて教職員に対する個人情報取り扱いの研修を行う。セキュリティーに関しては問題がないか業者と確認する。

質問.学校の理念について再確認

回答.技能と人格を兼ね備えた人材の育成

意見.理念に基づいた教育が行われていると感じる。

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

2. 学校運営	自己評価
2-1 目的に沿った運営方針は定められているか	4
2-2 方針に沿った事業計画は定められているか	3
2-3 意思決定機能は明確か、機能しているか	3
2-4 人事制度等は整備されているか	3
2-5 情報公開は適切に行われているか	4
2-6 情報システム化など業務の効率化が図られているか	3
1. 教育目的達成には学生確保が重要課題であり、そのための方針を定めている。 2. 短期の事業計画はあるが、中長期的な事業計画が不足している。 3. 小規模校で職員数が少ないこともあり意思決定プロセスが多少不明瞭になる傾向がある。 4. 歴史が長く古い制度が継承されており改善の余地がある。 5. 2019年度からホームページでの積極的な情報公開を行なっている。 6. データベースの導入など情報システムの改善に着手している。	

課題

定員（理容 20 名・美容 40 名）を確保することと、少人数制のメリットを活かすことは相反しないが、20 名単位の授業を想定した場合、教室数や指導人材の確保などが課題となる。そのためにも中長期の事業計画を教職員も共有し、優先順位を明確にしながら改善に取り組む必要がある。また、優秀な人材確保のためにも、人事制度などを含めより働きやすい環境を整備する必要がある。

今後の改善方策

財務状況などを踏まえ、施設の拡張や人員の増加など事業計画を策定する。

特記事項

18 歳人口の減少や高齢化など、社会環境の変化を踏まえガバナンス強化の必要がある。

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

質問.人事制度の改善の余地とはどういうことが具体的に聞きたい。

回答.特に査定制度について整備していきたい。

質問.以前は学生が非常に多かったと記憶しているが、県外流出が増えたのではないか。

回答.教育には自信があるが魅力発信ができていなかった。現在は改善傾向にある。

意見.他県の理容学校の廃校が増える中アイビーは学生募集も強化しており評価できる。

意見.少子化の中で生徒募集に努力されていると思う。

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

3. 教育活動	自己評価
3-1 各科目の到達レベルは明確に定められているか	4
3-2 業界と連携しカリキュラムの改善を行っているか	4
3-3 体系的なインターンシップ制度はあるか	5
3-4 成績評価・進級卒業判定の基準は明確か	4
3-5 資格取得に関する指導体制は十分か	5
3-6 優れた教員を確保しているか	4
3-7 教職員の研修などが適切に行われているか	4
1. 理美容の国家資格取得のための到達レベルは明確に示されている 2. 提携サロン制度により業界の声を反映したカリキュラム改善に取り組んでいる。 3. サロンでの実務実習時間をタイミングや目的を踏まえ体系的に増加させている。 4. 国家資格取得が最低限必要なため成績判定等は明確にある。 5. 選択コースによる民間資格取得も含め指導体制は機能している。 6. 非常勤講師を含めて優れた教員の確保努力をしている。 7. 理美容師養成施設として要件を満たす教員の育成を行なっている。	

課題

技術や知識以外に、理美容師として必要な接客力（コミュニケーション力や共感力・話題力）を高める指導が教師個人に任されており、体系的なカリキュラムが不足している。

今後の改善方策

接客力を高めるためにどのような指導や経験が必要になるか研究する。

特記事項

国家試験を受けるにあたり、厚労省の定めたカリキュラムと履修時間があるため、制約の中で何ができるかを検討する必要がある。

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

意見.優れた教員の確保に関しては「5」で良いと思う。教員のバランスが良い。

意見.佐賀女子高にとっては非常に良い授業をしていただいている。清掃などの指導もしっかりしていて助かっている。

意見.接客力の向上は現場も同じ課題。特に聴く力を高めるための指導や研修など情報が知りたい。

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

4.学修成果	自己評価
4-1 就職率の向上は図られているか	5
4-2 資格取得率の向上は図られているか	5
4-3 退学率の低減が図られているか	4
4-4 卒業生の状況を把握しているか	4
1. 就職率は業界就職 100%継続中である。 2. 国家資格取得については毎年数名程度がボーダーラインにいるが、個別指導を行うなど、合格に向けた指導を行なっている。 3. 経済的理由で止むを得ない場合もあるが、カウンセリングや個別指導など、退学者をなくす活動を行なっている。 4. 就職後にもサロン訪問などを行い卒業生の状況は把握しているが、個人レベルでの活動であるため体系的に記録する仕組みが今後必要と考える。	

課題

卒業生の離職状況などを正確にトレースする仕組みの構築が必要

今後の改善方策

毎年定期的に卒業生の状況を調査する体制の整備と情報のデータベース化を図る。
現在、学籍のデータベース化を進めているため、卒業後のデータも一元管理できるシステムを追加する。

特記事項

就職指導では、離職を減らすためにも、本人の希望を最優先しながら、一人ひとりの適性やビジョンをもとに、最も適したサロンを紹介する体制をとっている。

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

意見.学生のうちからコンテストに取り組んでいるので就職後も積極的に取り組んでくれている。メンタルも鍛えられているので雇用側としては非常に助かっている。

意見.優良な就職先の確保は非常に重要。さらに努力してほしい。

意見. コンテストの実績アップをして頂くことで生徒の確保にも繋がると思います。

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

5.学生支援	自己評価
5-1 生活指導に対する体制は整備されているか	4
5-2 保護者と適切に連携しているか	4
5-3 卒業生の支援体制はあるか	4
5-4 高校等との連携による職業教育の取り組みはあるか	3
1. 生活指導については担任を中心に全学的にサポートしている。 2. 保護者とはコンテストやヘアフェスタなども含め必要に応じて連携している。 3. 就職先を訪ね状況を把握するなど卒業生に対する積極的な支援を行なっている。 4. 佐賀女子高校美容コースやサポート校への講師派遣を行なっている。	

課題

近隣住民から学生の生活態度についての指摘が年に数件ある。

今後の改善方策

社会人として人間力を高めるための指導方法等について引き続き検討し、苦情がなくなるように努力する。

特記事項

理美容に特化した専門学校であるため、高校と連携したキャリア教育を単独で行うのは難しいのが現状。

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

要望.佐賀女子高の美容師試験について、結果を出して初めて評価できる。まだ 2 年生なので、ぜひ実績を数字で出してほしい。

意見.バイクや自転車通学の学生には校外での自覚が必要

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

6.教育環境	自己評価
6-1 施設設備は十分に整備されているか	3
6-2 防災に対する体制は整備されているか	-
1. 学習に必要な設備は整備されているが、少人数制を維持しながら定員の充足を図るために計画的な整備計画が必要。	
2. 評価項目を追加（次年度より評価）	

課題

防災に対する体制整備について評価項目を設けていなかった。

今後の改善方策

火災・水害・台風などの災害から学生および教職員を守るための訓練計画や休校等の基準、および伝達方法などを定める。

特記事項

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

意見.ウイルス対策なども検討された方が良いのではないのでしょうか。

回答.次回までに項目を追加し、評価できるように対策する。

要望.校区内でハザードマップを作る予定なので活用してほしい。

回答.早急に防災対策をまとめる

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

7.学生の受け入れ募集	自己評価
7-1 学生募集は適切に行われているか	4
7-2 学納金は適正・妥当に設定されているか	4
7-3 入試は公平・公正に行われているか	5
7-4 高校等への情報提供は適切に行われているか	4
1. 学生募集は進路検討者の立場に立ち適切に行なっている。 2. 学納金は道具材料費も含め適切に設定している。 3. アドミッションポリシーを定め公平・公正な入試を行なっている。 4. 広報職員を置くことにより高校への情報提供を適切に行なっている。	

課題

募集定員を充足できていない。

今後の改善方策

教育目標の達成や教育レベル向上のためにも学生募集が重要なため、外部の意見を取り入れ随時改善を続けていく。

特記事項

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

意見.サロン側も学生募集に協力できるように検討していきたい。

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

8.財務	自己評価
8-1 経営基盤は安定しているか	3
8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものか	3
8-3 会計監査は適切に行われているか	4
8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4
1. 中長期的な財務基盤の安定には、学生数の確保が重要だが、現時点では定員を充足しておらず今後の課題。 2. 教育の質を向上するための収支計画が課題。 3. 会計監査は外部により適切に行なっている。 4. 財務情報はホームページで公開している。	

課題

収入の安定化のために学生募集の強化が必要

今後の改善方策

コンサルティングの活用により学生募集全般に関して見直しを行う。また、活動に係る予算の検証を行う。(費用対効果)

特記事項

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

意見.コンサルティングの費用対効果について検討した方が良いのではないかと。

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

9.法令等の遵守	自己評価
9-1 設置基準等は遵守されているか	4
9-2 個人情報保護の対策は適切か	4
9-3 自己評価の実施と改善を行っているか	4
9-4 自己評価結果を公表しているか	5
1. 専修学校設置基準および理美容師養成施設としての基準を遵守している。 2. 個人情報の取り扱いに関してはさらなる努力が必要。 3. 自己評価を実施し 2019 年度より学校関係者評価を行う。 4. 自己評価結果はホームページで公開している。	

課題

学籍および学生募集に係る情報のデータベース化に伴い、より効果的な個人情報保護の対策と教職員研修が必要。

今後の改善方策

外部からのネットワーク侵入を防ぐとともにサーバーを直接操作できないように対策する。情報漏洩の 8 割は内部の故意や過失にあるため教職員研修を強化する。

特記事項

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

特に意見なし

・5 = 大変適切 ・4 = 適切 ・3 = ほぼ適切 ・2 = やや不適切 ・1 = 不適切

10.社会貢献・地域貢献	自己評価
10-1 学校の特徴を生かした社会貢献を行なっているか	3
10-2 地域に対する教育訓練等を行なっているか	3
10-3 学生のボランティア活動を奨励しているか	4
1. 老人ホームや保育園などの施設訪問は行なっているが計画的ではない。 2. 公共職業訓練の受託を積極的に行なっているが利用者は数名程度。 3. 高校の文化祭支援などのボランティア活動があれば随時参加を推奨している。	

課題

地域貢献やボランティアに関しては計画的ではなく必要に応じて、または個人の判断に任されている。

今後の改善方策

専門学校に入学する学生へ応えながら、どのような形で社会貢献できるか研究する。

特記事項

必要性は十分理解しているが、定められた履修時間とコンテストやショーに向けた準備時間、国家試験への備えなどを優先しているのが現状。

■学校関係者の評価・意見 [適切 4・不適切 0]

意見. 水曜日は街掃除の日として 45 分間活動している。アイビーも地域の清掃活動などを定期的に行ってはどうか。

意見.佐賀女子高校も年 4 回保ボランティアを行なっている。

回答.学内で前向きに検討する。

■ アイ・ビービューティカレッジの学校運営について総合的な評価

全体として本校の自己評価については適切との判断をいただいた。課題も明確になっているので、次回の中間報告までに改善に向けて着実に進めていくことを確認した。